

ピロリ菌を知っていますか？

50代以上の日本人の約50～60%が感染しているといわれているピロリ菌は、胃・十二指腸潰瘍、胃炎や胃がんなどの原因のひとつになることがわかっています。

ピロリ菌の感染の有無を調べるにはどうすればいいの？

内視鏡を使わず、体に負担が少ない、より安全で簡単な「糞便中抗原測定」があります。胃の中にいるピロリ菌は、便中に排泄されるため、便の検査をすることでピロリ菌感染の有無がわかります。



糞便中抗原測定について詳しくお知りになりたい方はぜひ当施設の窓口までご相談ください。

※下記以外の方は自費診療となります。

- ①内視鏡検査又は造影検査において胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の確定診断がなされた患者
- ②胃MALTリンパ腫の患者
- ③特発性血小板減少性紫斑病の患者
- ④早期胃癌に対する内視鏡的治療後の患者
- ⑤内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者